

現代社会では、科学についての高度な知識を備えながら、金融の世界で活躍できる人材が求められています。

大阪大学の卓越大学院プログラムが、理系の大学院生を対象に特別講義「サステナブルファイナンス入門と投資実務」を開講する意義とねらいを以下に説明します。

社会課題やグローバル課題を科学と金融の力で解決する

* 「サステナブルファイナンス」とは、持続可能な社会の実現に向けて、近年注目を集めている資金調達手法です。民間金融機関や機関投資家が主体的にサステナブルファイナンスを拡大させており、特に ESG 投資額やグリーンボンド等の発行額が増加しています。

* 背景として、地球温暖化による気候変動、感染症の世界規模の拡大、貧富格差の拡大など様々なグローバル課題に対し、国連を中心に国際的な政策協調やルール形成に向けた議論が進展し、3,000 兆円ともいわれる世界の ESG 投資資金により、世界中で持続可能な社会の構築のための研究・技術開発を行い、新たな産業・市場の開拓が進められています。

* 一方で、グローバル課題の解決に向けて、アカデミアにより蓄積される科学・技術に関する高度な知識・技術の導入が期待されており、またこれらを有する専門人材が金融や経済等の実践的な知識を身に付け自ら持続可能な社会の実現をリードしていくことが求められています。本特別講義はアカデミア、金融、企業、行政などを行き来しながら課題解決を目指す人たちのために開講されます。

ユニバーサルオーナーとしての機関投資家との連携

* ESG 投資を積極的に推進している海外の巨大な公的年金基金の間で、ユニバーサルオーナーという考え方が広がってきています。ユニバーサルオーナーとは、巨額の運用資産を持ち、中長期的な視座にたって、幅広い資産や証券に分散投資を行っている投資家が置かれた状況を表現した言葉です。運用資産が巨額のため、事実上、経済・市場全体を輪切りにした一部を所有した状態になっており、経済社会が持続的に成長するか、市場が健全に機能するか、といったことに強い関心を注ぎます。

* 例えば、企業活動に伴う大量の温室効果ガス排出など、経済社会の持続可能性に悪影響を与え得る企業行動が問題視されます。また、ユニバーサルオーナーは、経済社会の持続的な成長や、市場の健全な機能を確保するため、企業に対して積極的にエンゲージメントを行います。運用資産規模の大きな機関投資家は、人類社会の未来に少なくない影響を与えることを前提に投融資活動を行っています。

* 本特別講義を担当するかんぽ生命株式会社は、70 兆円の資産を運用する我が国最大級のアセットオーナー（機関投資家）であり、全資産の投融資に関して ESG 要素を加味し、経済的リターンと社会的意義の両立を目指しています。また、本年よりインパクト投資（インパクト K プロジェクト）に取り組み、大学発の研究開発型ベンチャーに対する投資により社会的インパクトの拡大を目指しています。

* このような投融資を高度に実現するため、学術の探究や先端技術の開発に留まらず、その知識や技術を活かして、実際に世界レベルでの課題解決や国際的なルール作りなどに組みたいという人材に同社は強い関心を持っています。また、かんぽ生命に限らず、わが国有数のアセットオーナーも同様の課題感を有しており、本講義の受講が博士人材の新たな活躍の場に繋がることが期待されます。

受講により得られる効果

本受講では、高度な科学・技術と金融の知識をもって世界を舞台にサステナブルファイナンスの実践をリードする人材を見出し、その育成の導入をつくることが目的の一つですが、決してそれだけではありません。本特別講義で得られる基礎知識は、例えば研究室や大学の知的アセットから社会的・経済的価値を見出す、起業して投資家とともにそれを社会に送り出してスケールアップする、投資家として研究者の起業を支援する、社会課題の解決のための産学連携プロジェクトを推進する、大学や企業の研究所で課題解決に資する基礎・基盤的な研究に取り組む、大学の経営幹部として大学資産を運用してその教育研究への資金循環を促進するなど、様々な局面で将来、役立つものと効果が期待されます。

PQBA プログラム・コーディネーター

中野 貴志